

# 国際協力とは何か、その問いに徹底的に向き合える環境

氏名： 市川 裕太郎 (いちかわ ゆうたろう)  
学部・学科・専攻： 教養学部/アーツ・サイエンス学科/経済学専攻  
インターン配属先： 産業開発・公共政策部 資源エネルギーグループ  
テーマ： 電力・エネルギー分野における国際協力に関する情報収集及び各種補助業務

## 1. インターンシップへの参加動機

私がインターンシップへ参加した動機は、①JICA 業務を理解する、②今後のキャリアを考える上での参考にする、③実務経験を積む、でした。将来的に国際協力の分野でキャリアを築きたいと考えていたので、実際の援助や案件形成がどのようになされているかを学び、キャリア形成の参考にしたいと考えました。特に、私の配属先は発電所の建設など、規模の大きな案件を担当しているため、NGO や民間の援助主体にはない特色・特徴を学ぶことを期待しました。

## 2. インターンシップ内容

レポート作成、会議等への同行、ナレッジマネジメント<sup>1</sup> 関連業務、各種業務支援の4つを軸に活動しました。レポートはサブサハラにおける太陽光発電について執筆し、電源開発について理解を深めました。また、会議等への参加では、民間企業との意見交換会や、外務省主催のシンポジウムへ参加し、案件の進行とそれらを取り巻く環境への理解を深めました。

注1 ナレッジマネジメント：JICAにおいて、既存のナレッジ（事業の実施等を通じて得られた課題解決に必要な専門性に関する知識、情報等をまとめたもの）の蓄積・発信により、課題解決を図ろうとする取り組み

## 3. インターンシップを通じて学んだこと

特に、JICA 業務やキャリア形成について、多くの知見を得ることが出来ました。具体的には、アフリカの電化状況や、JICA としてどのような支援が可能なのか、案件を形成するうえで官民含めどのようなアクターと関わっていくのかということです。また、都度細かくフィードバックをいただき、インターンシップを通して仮説を立てて物事に取り組むようになったことで、その後学業面などで、的を射た本質的な議論を導くことが出来るようになったと感じます。更に、職員の方々から業務内外において個人的にお話を伺うことが出来たことも、貴重な経験でした。国際協力にかける思いや、JICA 職員となった経緯を聞き、毎日多くの刺激を受けました。

## 4. 応募を考えている方へひとこと

JICA でインターンシップを行うことは、今日の国際協力への理解を深める上で、貴重な機会だと思います。上記内容をはじめ、インターンでしか経験できないもの・ことが多くありました。また、業務内外での職員の方とのコミュニケーションを通じて、自分を再発見することが出来ました。具体的には、自分がどのように国際協力に関わっていきたいのかが明確になりました。私は配属先の部署が取り組んでいる、インフラの整備や政策の策定といった開発の上流部分に関わることに興味があることを発見しました。自分が過去にインフラのない環境で生活した経験も相まって、大規模なインフラ設備投資の案件の進捗を間近に見たときに、その社会貢献性の大きさを理解し、とてもやりがいの感じられそうな仕事だと考えました。国際協力の現場を大局的に俯瞰したい方は、是非 JICA インターンシップ・プログラムへの参加を検討されると良いと思います。

# 青年研修 アフリカ「職業訓練」コースに参加して

氏名： 紙谷 あかり  
学部・学科・専攻： 国際・公共政策大学院・グローバル・ガバナンスプログラム  
インターン配属先： 北陸センター  
テーマ： 青年研修 アフリカ「職業訓練」コース

## 1. インターンシップへの参加動機

セネガルでアフリカの遺児学生の海外進学支援に取り組む中で、アフリカの若年層の失業率の高さを知ったことがきっかけです。現在のアフリカには教育を受けた人材が学んだことを社会に生かし、就労に繋がるような土壌が育っていないのではないかという問題意識を抱きました。人材育成と産業振興の両者を実現するために日本の立場からアフリカに対し何ができるか、また日本国内での取組みについて知見を深めたいと思い応募しました。

## 2. インターンシップ内容

職業訓練校の教師等であるアフリカ9ヶ国12名の研修員とともに研修の全日程に参加し、引率や写真撮影などの業務補助を行いました。また毎日簡単なレポートを作成し、研修の様子、学んだ事を JICA 北陸の研修担当者に共有しました。さらに日々の研修の様子を、JICA 北陸の Facebook にて、研修中に撮影した写真などとともに紹介し、JICA 北陸の活動を広報しました。

## 3. インターンシップを通じて学んだこと

最大の収穫は「国際協力の現場は国内にもある」ということです。国際協力というと、これまでは途上国の現場に足を運び活動するというイメージを抱きがちでしたが、国内も国際協力のフィールドのひとつであることを体感することができました。また地方だからこそできる国際協力の形があるということも大きな気づきでした。実施されている研修は、小松市の特色である盛んな製造業や活力ある中小企業、それを維持・支援する教育機関や行政、伝統ある文化を活かしたものとなっており、アフリカからの研修員もそこから多くを学んでいる姿が印象的で

## 4. 応募を考えている方へひとこと

JICA の業務内容は多様で、インターンシップで用意されているポストも自分の研究分野に必ずしも合致する内容ではないことがあるかと思いますが、少しでも興味・関心があるものがあればぜひ応募をおすすめします。応募の際には、どうしてそのポストに興味を持ったのか、伝わりやすいように説明できるよう整理することがとても大切だと思います。頑張ってください！



研修員が地元企業を訪問した際の様子



北陸センターでの報告会后、インターン及び職員とともに

# 実践をとおして学んだこと

氏名： 永田 貴一  
学部・学科・専攻： 国際協力研究科・教育文化専攻  
インターン配属先： JICA モザンビーク事務所  
テーマ： 初等教員養成校における算数教育関連教材の活用状況調査

## 1. インターンシップへの参加動機

私は、2015年に青年海外協力隊でモザンビークへ数学隊員として派遣され、現在は大学院で同国の数学教育についての研究を行っています。本インターンシップの志望理由は、配属国と活動内容が自身の分野・経験に合っていたこと、また国際協力の現場を実際に見たいと思ったことです。さらに、プロジェクト内容が算数教育であったため、現地で活動することにより、同国の教育への理解をより深めることができました。

## 2. インターンシップ内容

活動内容は主に三つあります。①JICA 委託事業「小学校教員養成校における教材開発の最終化支援」への参加。プロジェクトに携わりポルトガル語を用いて作成された算数教材の修正をしました。②教育省と掛け合い、教育関連の情報を収集しました。それらを整理し文書として事務所へ提出しました。③現在大学院で行っている研究の現地調査を行いました。

## 3. インターンシップを通じて学んだこと

まず、国際協力の現場を知ることができたということです。それまでは、書面でしかプロジェクトの概要を知ることしかできませんでした。しかし、参加することによって、どのように動いているのか、また現場で必要とされる能力を学ぶことができました。次に、現地の人と共に働くことができたという点です。現地のプロジェクト・事務所は日本人だけで運営されているのではなく、現地の人との協働により動いていることを実感しました。現場で共に活動することにより、語学力の向上や現地の人々の考えに対する理解を深めることができました。

## 4. 応募を考えている方へひとこと

将来国際協力分野を目指す人にとってこのインターンシップは、非常に有意義な経験になると思います。現場レベルでのものの見方を身につけると共に、メールや報告書の書き方など社会人としてのマナーも指導して頂くことができました。開発途上国で働く上での苦労ややりがいを経験することができる貴重な機会ですので、是非参加することをお勧めします。

JICA 事務所にてインターンシップ  
最終報告会を実施



# JICA プロジェクトの絆から学んだ真の国際協力

氏名： 境 智代

学部・学科・専攻： 中南米・カリブ・ラテン系アメリカ研究専攻

インターン配属先： JICA エルサルバドル事務所

テーマ： 日本とエルサルバドルの絆から生まれた JICA レジェンドの発掘

## 1. インターンシップへの参加動機

高校時代エクアドルへ留学した時に JICA ボランティアの方と出会ったのがきっかけで、南米の国際協力に携わる仕事をしたいと考えるようになりました。その中でも、国際協力の裏側ではどのようなプロジェクト形成の過程があり、どのような議論が行われているかを学ぶために今回のインターンシップに応募しました。そして、この経験を通して自分のキャリアプランについて改めて考えることを目的としました。

## 2. インターンシップ内容

看護教育強化プロジェクト、通称「天使のプロジェクト」に携わる現地の看護師や日本人専門家等にインタビューを行い、これまでのプロジェクトの軌跡や、公式の報告書には載らない国を超えた関係者の絆に関する話をまとめ、現地の人向けの書籍を作成しました。

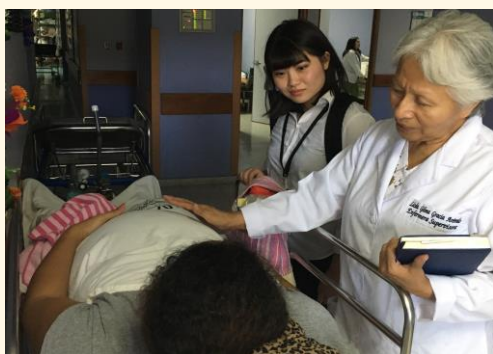
## 3. インターンシップを通じて学んだこと

インターンシップを通じて学んだことは2つあります。1つ目に、国際協力は相手国と同じ目線に立ち、相手国の文化や歴史を理解することが重要であるということです。どんなに高度な専門知識や深い知見を有する専門家でも、相手国を理解せずには他国の人材育成は難しいことを学びました。2つ目に、一つのプロジェクトが全ての国に応用できる訳ではないということです。プロジェクトが計画的に実行されるかは、その国の政治や価値観に左右されることを学びました。また、このような困難を減らすために、プロジェクト形成においては多くのプロセスを経ることを学びました。

今後のキャリアプランは、国際協力に携わるには専門分野を持つことが大切であると実感したため、大学院で人権や都市開発について学びたいと考えています。

## 4. 応募を考えている方へひとこと

発展途上国で行われる国際協力について現地で学びたい方には、在外のインターンシップをお勧めします。業務内容によっては、現地の人々や政府関係者と関わることも出来る貴重な機会です。また、積極性を持って活動することで、自身の視野を広げることも出来ます。



当時のプロジェクトリーダーと現地の病院を訪問



プロジェクトに参加した看護師へのインタビュー

# 将来のキャリアを明確にしたインターンシップ

氏名： 高野 光輝

学部・学科・専攻：環境・資源・開発学科 環境工学専攻

インターン配属先：株式会社エックス都市研究所

テーマ： スリランカ廃棄物管理における汚染防止・環境負荷低減

## 1. インターンシップへの参加動機

大学院で環境工学（特に廃棄物管理）を専攻しており、在学中に専門分野での実務経験を更に深めたいと考えて JICA インターンシップへ応募しました。また、将来のキャリアの選択肢の一つとして日本の国際協力の重要な担い手である「開発コンサルタント」の業務を体験的に学びたいとの思いもありました。

## 2. インターンシップ内容

スリランカでは JICA プロジェクトで廃棄物削減の取り組みを行う南部の町役場にて、約3週間活動を行いました。上記プロジェクトの最終評価の一環として、①町から排出されたゴミの組成調査、②住民を対象とした廃棄物管理の実態調査を行いました。プロジェクトで改修した処分場の運営管理やモニタリングにも関わらせていただきました。

## 3. インターンシップを通じて学んだこと

本インターンシップではプロジェクトの成果を測る具体的な手法を身につけられたことに留まらず、国内外の国際協力関係者と面識を持つ機会を多く得ることができました。特に「国際協力の実務者」を目指している私にとって、プロジェクトを監理する「JICA」と現場でプロジェクトを動かす「開発コンサルタント」両者の役割と貢献の仕方を実体験として把握できたのは大きな収穫だと思っています。今回のインターンシップを経て、将来はより専門的に環境管理分野で業務に就く意思を固められたとともに、自身のキャリアの方向性が明確になりました。

## 4. 応募を考えている方へひとこと

JICA インターンシップは、「国際協力の現場に触れたい！」という方から「自分の専門分野で現場経験を積みたい！」という方まで、様々な要望を持つ方にオススメできるプログラムです。JICA 職員の方、専門家の方、開発コンサルタントの方など日本の国際協力を担う様々なアクターと交流する機会もあるので、ネットワークも広がりますよ。



町役場の職員とゴミの組成調査を実施する様子



JICA プロジェクトで改修した処分場にて  
現地アシスタントの方と

# エチオピアにおける人材育成

氏名： 青山 真歩

学部・学科・専攻： 経済学部・国際経済学科・開発経済学専攻

インターン配属先： 株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション

テーマ： エチオピア国水技術機構（EWTI）研修運営管理能力強化プロジェクト

## 1. インターンシップへの参加動機

インターンシップへの参加動機は、国際協力分野での人材育成について現場で学びたいと考えたからです。大学では開発経済学を学んできましたが、学問や研究としてだけではなく、実際に国際協力の現場で自分自身が体感しながら運営の難しさや大切さを学びたいと考えていました。また、国際協力の中でも、現地の方の力を引き出し、自ら開発を進めるために重要となる人材育成について学びたいと思い、上記のポストに参加しました。

## 2. インターンシップ内容

水分野の技術者を育成する職業訓練センターである、エチオピア国水技術機構（EWTI）の研修運営能力やEWTIに所属する講師の指導能力向上を目的としたプロジェクトに参加しました。インターンシップ期間中は、外部イベントの出店準備・当日のブース運営や、プロジェクトにおける取り組みの1つであるパイロット研修の参加・記録などを行いました。

## 3. インターンシップを通じて学んだこと

特に印象に残っていることはカウンターパート（技術移転の受け入れ機関や人）とのコミュニケーションの難しさと信頼関係の築き方です。異なる文化や習慣を持つ方々と1つのプロジェクトを成し遂げることは簡単ではなく、インターンシップを進める中で何度も悩みました。しかし活動の中で、相手の考えを受け入れつつも、相手のペースに流されるだけではなく、時には本気でぶつかることの大切さを学びました。表面的なコミュニケーションではなく率直に自身の想いを伝えることで、信頼関係を築くことができると実感しました。

## 4. 応募を考えている方へひとこと

インターンシップは、国際協力の現場で学ぶことができる貴重な機会です。特に、コンサルタント型ではプロジェクトに入り込み、カウンターパートのオフィスや活動現場にて共に活動できます。現場での活動は、日本の常識が通用しないため苦勞も多いですが、そこでしか得られない学びが多くあります。ぜひチャレンジしてください！



井戸を掘る掘削機



井戸掘り現場への  
地方出張にて